



















週間市場レポート (2022年4月18日~4月22日)

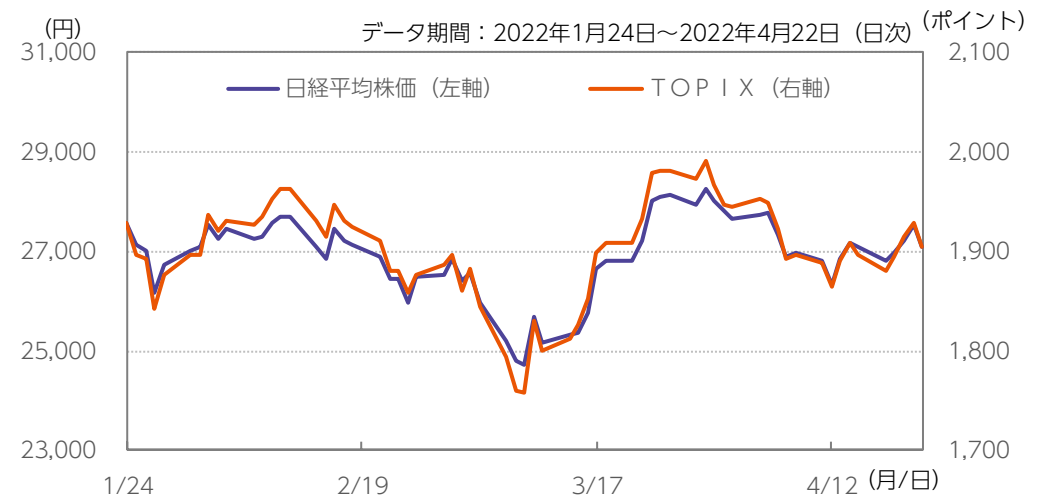
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/4/15	先週末 2022/4/22	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,093.19	27,105.26	0.04 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,896.31	1,905.15	0.47 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		34,451.23	33,811.40	▲ 1.86 ↘
S&P500種指数		4,392.59	4,271.78	▲ 2.75 ↘
ナスダック総合指数		13,351.08	12,839.29	▲ 3.83 ↘
ユーロ・ストックス50指数		3,848.68	3,840.01	▲ 0.23 ↘
S&P/ASX300指数		7,526.40	7,476.17	▲ 0.67 ↘
上海総合指数		3,211.25	3,086.92	▲ 3.87 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)*		877.49	855.32	▲ 2.53 ↘
東証REIT指数		1,992.65	1,993.61	0.05 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		927.77	938.79	1.19 ↗
ASX300 REIT 指数		1,613.70	1,634.40	1.28 ↗
グローバルREIT (除く日本)*		218.89	220.47	0.72 ↗
日本10年国債 (%)		0.241	0.250	0.009 ↗
米国10年国債 (%)		2.828	2.899	0.071 ↗
ドイツ10年国債 (%)		0.842	0.972	0.130 ↗
英国10年国債 (%)		1.889	1.963	0.074 ↗
ドル/円		126.46	128.50	1.61 ↗
ユーロ/円		136.73	138.79	1.51 ↗
英ポンド/円		165.15	164.99	▲ 0.10 ↘
豪ドル/円		93.52	93.08	▲ 0.47 ↘
フィラデルフィア半導体指数		3,028.22	2,989.83	▲ 1.27 ↘
WTI原油先物 (ドル)		106.95	102.07	▲ 4.56 ↘
CRB指数		311.92	304.23	▲ 2.47 ↘

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。中国経済の減速懸念や、ウクライナ情勢をめぐる先行き不透明感がくすぶるなか、週初は米長期金利の上昇を受け、グロース（成長）株を中心に売りが優勢となりました。その後は、米長期金利の上昇にやや一服感がでたことや、円安による輸出採算の改善期待から、自動車株や機械株を中心に買われ上昇したものの、週末は、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融引き締めへの警戒感から再び米長期金利が上昇すると、割高感の意識されやすい高PER（株価収益率）の銘柄や値がさ株を中心に売られました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

※現地通貨ベース *1 ▲はマイナスを表します。*2 一部海外市場はグッドフライデーのため4月14日のデータを掲載

≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。
 米国の早期金融引き締め観測で米長期金利が上昇した流れを受け、国内金利も上昇したものの、日銀が指定した利回りで無制限に国債を買い入れる指し値オペ（公開市場操作）を実施し、日銀が金融緩和を継続する姿勢が示されると週末にかけて低下しました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

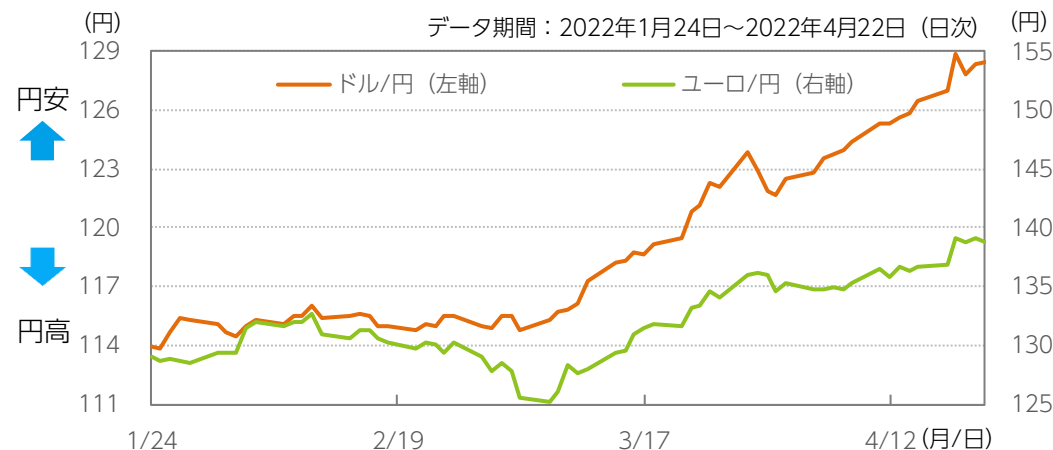
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。
 主要企業の四半期決算が本格化する中、消費関連セクターなどの好決算を発表した銘柄が相場をけん引しました。21日（木）の国際通貨基金（IMF）の会合で、パウエルFRB議長が次回の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げに積極姿勢を示すと、金融引き締めの加速により米国景気の回復が鈍るとの懸念から週末にかけて大幅に下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。
 黒田日銀総裁が18日（月）の国会答弁で、現在の金融緩和を維持する方針を改めて示したことから、日米の金融政策の方向性の違いが改めて意識され、日米金利差の拡大を見込んだ円売り米ドル買いが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

先週の米国株式市場は、FRBによる早期利上げや金融引き締めへの警戒感から、下落しました。

パウエルFRB議長が世界経済に関するIMFの会合で、5月のFOMCでの0.5ポイントの利上げに前向きな姿勢を示しました

FRBが金融引き締めを一段と進めるとの見方から、米長期金利は上昇基調を強めています。ロシアはウクライナ南東部の都市、マリウポリの制圧を宣言しました。一方、ウクライナは、宣言後もロシア軍がマリウポリで攻撃を続けていると訴えており、引き続き徹底抗戦の構えを示しています。

今週は、米大手ハイテク企業や国内の主要企業の決算発表が集中します。多くの企業で好業績が期待される一方、ウクライナ情勢をめぐる緊迫化やそれにとまなう供給制約の長期化懸念などから、一部の企業が業績見通しを下方修正することも予想されます。今週の株式市場は、日銀金融政策決定会合やゴールデンウィーク中にFOMCを控え様子見ムードが高まるなか、決算結果および業績見通しを受け一進一退の展開となると予想します。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>